

『肺多形癌における PD-L1 免疫組織化学的評価とその臨床的検討』

に関する患者様、ご家族の皆様方へ

当院では、『肺多形癌における PD-L1 免疫組織化学的評価とその臨床的検討』という調査、研究を行っています。肺多形癌は稀な疾患であり、治療に難渋することが多いと報告されています。肺多形癌の PD-L1 発現や臨床像を調査することにより今後の診療に役立てていくことがこの研究の目的となります。

PD-L1 (Programmed cell death 1 ligand 1) とは：

正常な細胞が変化してできた癌細胞は、その細胞の表面に抗原と呼ばれるタンパク質を持っており、免疫細胞はこの抗原を見つけると、癌細胞を異物とみなして攻撃します。癌細胞は細胞表面に PD-L1 を発現しており、免疫細胞である T 細胞の PD-1 と結合して免疫細胞の攻撃を免れています。従来の抗癌剤による治療とは癌そのものを攻撃するものでしたが、PD-1 を阻害することによって免疫細胞による癌細胞への攻撃を導くのが抗 PD-1 抗体薬/抗 PD-L1 抗体薬による免疫治療です。

<調査の対象となる患者さま>

2002 年 1 月 1 日から 2017 年 3 月 31 日までの間に近畿中央胸部疾患センターで肺多形癌と診断された患者様を対象といたします。

<調査方法>

患者様のカルテの記録を参照いたします。本調査では、患者様に新たなご負担をおかけすることはありません。

<患者さまのプライバシーに関して>

プライバシー・個人情報は厳重に守られます。お名前、生年月日など患者様を特定できる情報が外に出ることは決してありません。

\*この臨床研究に関してご不明な点がある場合、もしくは研究にカルテ情報を利用することにご了解いただけない場合は以下に示す本調査の研究代表者までお問い合わせ下さい。尚、その場合においても患者さんが診療上不利益をこうむることは一切ありません。

〒591-8555 - 大阪府堺市北区長曾根町 1180

国立病院機構近畿中央胸部疾患センター

内科 内藤 真依子

別紙 1

国立病院機構近畿中央胸部疾患センター 研究センター

肺がん部長 安宅 信二

TEL: 072-252-3021, FAX: 072-251-2153

なおこの調査は病院外の専門家の方を含んだ近畿中央胸部疾患センター臨床試験審査委員会 (IRB) における厳重な審査・承認をうけて実施しています。

(当院ホームページに掲載)